



2007年アーメダバード宣言： 行動への呼びかけ

生きるための教育： 教育を通しての生活

2007年11月28日

本宣言は2007年11月24～28日に作成された。第4回環境教育国際会議への97か国、1,500人以上の参加者が起草に参加した。本会議はUNESCO、UNEPおよびインド政府が主催し、アーメダバード（インド）の環境教育センターがホスト役を務めた。1977年にトビリシ（ジョージア）で第1回環境教育国際会議が開催されて以来、1987年モスクワ、1997年テサロニキ（ギリシア）と10年に1回の国際会議が開催されてきた。本宣言は、国連の「持続可能な開発のための教育の10年」の枠組みに沿って作成された。

私たちの描く世界は、私たちの仕事や日常の生活が地球の全ての生命の幸福に貢献することができるというものである。私たちは、教育を通じて、生態系の保全、経済的・社会的公正、持続可能な生活、全ての生命の尊重を指向するような人間の生活スタイルが達成できると考えている。教育を通じて、私たちは、紛争の予防と解決、文化的多様性の尊重、他者への配慮に満ちた社会と平和的な環境の中での生活の創造を学ぶことができる。私たちは、地球とその生命維持システムを尊重し、敬意を持ってきたそれぞれの土地に固有の伝統的な生活様式から学ぶことができ、その賢明さを現在の変化のスピードの速い世界に適応することができる。個人、コミュニティ、国家、そして世界レベルの選択の場面において、全体的な幸福を考慮することができる。若者、市民社会、政府、企業、出資者、その他の機関を含む各主体が、各主体の日々の行動により全ての人が誇ることができる実現可能な未来を形成することができる。

人類による生産と消費の拡大により、地球の生命維持システムとあらゆる生命の繁栄が急速にむしばまれている。ある人々にとっての許容可能な生活の質を構成する要素のレベルが、他の人々からの収奪を意味することも多い。富裕層と貧困層との較差が拡大している。気候変動の危機、生物多様性の損失、健康リスクと貧困の増大は、持続不可能な発展モデルやライフスタイルを示すものである。持続可能な未来のための代替モデルとビジョンは存在し、それらを実現するための緊急の行動が必要とされている。人権、男女平等、社会的正義、健康な環境を、地球レベルの規範とすべきである。持続可能な開発のための教育は、その変換のために必要とされている。

マハトマ・ガンジーは「私の生活を私のメッセージとしてください」と言った。私たちが指摘した世界の現状の例は全て重要である。私たちの行動は、持続可能な生活の探求の場において、実質的内容と活力を付加する。創造性と想像力により、私たちが生きるための物の価値、選択方法、行動について考え直すことが必要である。

私たちは、私たちの用いる道具、方法、行動様式、政治、経済、様々な関係、協力関係について考え直さなければならない。そして、教育の最も基礎となるものとその目的、さらには教育が、私たちが先導する多くの生命とどのように関係しているかについても、考え直さなければならない。私たちが（本宣言について）選択するのに際して、地球憲章、ミレニアム開発目標などの多

くのこれまでの成果を取り入れ、影響を受けた。

環境教育の課程は、持続可能なための教育を支持、擁護するものである。これらの（環境教育と持続可能なための開発の教育の）教育の課程は、関連し、共鳴し、説明可能でなければならない。厳格性、信頼性を追加し、学習と知識の共有のための一層の効果的な方法を見出すための研究が奨励される。

私たち全てが教師であるとともに学習者である。持続可能な開発のための教育は、教育について、配分のメカニズムから、生涯にわたる総括的で包括的な課程への変換を奨励するものである。私たちは、継続的に実践を拡大しながら、持続可能性のビジョンを精査するために、協力関係を構築し、多様な経験と知識の集約を共有することを誓約する。

ネットワークの力が増大する世界において、私たちは私たちの責任を尽くし、この会議からのメッセージを世界に広げることを誓う。国連システムと世界の政府機関が、環境教育を支援し、持続可能な開発のための教育を指向する政策の枠組みを策定し、その実施を誓約することが必要である。

私たちは、全ての人々が、謙遜、参加、威厳、人間愛の強固な思慮とともに、持続可能性の原則の追求に参加されることを求める。私たちはアーメダバードから、希望、熱情、行動の誓いの精神とともに前進する。

(翻訳：都筑良明, Translated by Yoshiaki Tsuzuki)